

基本理念

みんなで支え合い、居場所と出番のある福祉のまちづくり
～ 支え合う一人ひとりが主人公 ～



支え合い、すすめよう地域福祉

問い合わせ 福祉課 福祉政策係(☎内線363) ページID:20279

基本目標	取り組みの柱	取り組み
1 みんなで寄り添う	(1) 知る機会の充実	①こまやかな情報提供 ②学ぶ機会の提供
	(2) 相談体制の強化	①気軽に専門的な相談 ②包括的で連携した相談体制
2 支援を届ける	(1) 福祉・生活環境の充実	①福祉サービスの充実 ②生活環境の整備
	(2) いのちや権利を守る支援	①権利を守るための支援 ②災害に関する支援
3 日ごろからつながる	(1) 地域のつながりの充実	①隣近所や地域のつながり促進 ②地域活動の場の拡充
	(2) 社会参加のきっかけづくり	①多様な居場所や活動の拡充 ②社会とつながるための支援

第四次太宰府市地域福祉計画の取り組みの体系

地域福祉に関する取り組みを示しています。注目すべきは、市だけでなく、地域住民や地域の組織・団体、福祉サービス事業者、社会福祉協議会の取り組みも書かれていることです。その理由は、地域で支え合い、助け合える社会を実現するために、さまざまな立場の人たちが連携・協働することが大切だからです。

計画はホームページ・市役所で見ることが出来ます。地域福祉計画についての出前講座も用意していますので、ぜひ連絡してください。

地域福祉計画には何が書いてあるの？

地域住民や社会福祉に携わる団体、機関などが互いに協力し助け合いながら、性別や年齢、障がいの有無、経済的な格差などにかかわらず、誰もが住み慣れた地域で安心して暮らせる地域社会を築く取り組みのことです。簡単に言うと「地域での支え合い、助け合いによる福祉」です。

そもそも地域福祉ってなに？

本市では地域福祉の推進のために「第四次太宰府市地域福祉計画」(令和4年度～8年度まで)を策定しました。

広報紙を読んだり、市や地域の学習会に参加したりして、福祉や人権の理解を深めることで、支え合いの意識が高まります。

例えばこんな講座で学べます

認知症サポーター養成講座

認知症について正しい知識と理解を持ち、地域ぐるみで認知症の人を支える「認知症サポーター」を養成する講座です。

(参加者の声)

- ・困っている人を見かけたら声をかけようと思った。
- ・認知症の家族がいて、どのように接したらいいのかわからなかったが、今回の講義を日常生活の中で生かしていきたい。



認知症サポーターには「認知症の人を応援します」という意思を示すオレンジリングが渡されます。腕やかばんにつけて、見守り活動に役立てる人もいます。

出前講座(行政・大学)

防災や高齢者福祉、障がい福祉など、さまざまな分野から興味のあるテーマを選べます。地域福祉計画についての講座も用意しています。

手話奉仕員養成講座

耳の不自由な人に対する手話ボランティア(手話奉仕員)の養成講座です。



高校生や大学生、社会人なども参加しています。聞こえない人を変えて基本的な手話から学び、単語や表現を覚えたら手話で会話するグループワークも行います。

人権講座ひまわり



人権問題を考える市民参加型の講座です。(P17に掲載)

学ぶ

(基本目標1「みんなで寄り添う」に関連)



水城小校区合同清掃

行動する



水城区自治会のひまわり会サロン活動

つながる



市の防災出前講座

学ぶ

各地区で 防災訓練(学習会)開催

梅雨時期の大雨や台風・地震に備えて、各地区で防災訓練(学習会)が開催されました。近年、経験したことのない豪雨や大規模災害が全国で発生し、福岡県でも毎年のように「大雨特別警報」が発令されています。

災害から身を守り、少しでも被害を減らすには、日ごろからの備えが大切です。その一つとして、自治会の防災訓練などに積極的に参加しましょう!

向佐野区(6月4日(土)開催)

向佐野区在住の子どもを対象に「みんな集まれ!子ども防災学習会」を開催しました。「自分の命は自分で守ろう」を合言葉に、地震発生時に命を守るポーズや災害に備える準備などを学びました。



9月17日(土)には風水害についての学習会を開催予定です。



問い合わせ 地域コミュニティ課(☎内線543)

吉松区(6月18日(土)開催)

コロナ禍のため2年ぶりに水害を想定した避難・防災訓練を行いました。当日は避難開始から避難誘導、巡回訓練、消火器訓練、防災講話など一連の避難訓練を通して、参加した幼稚園児や住民の皆さんは梅雨の豪雨に備えていました。



水城台区(6月19日(日)開催)

警固断層による地震を想定した対応訓練を行いました。地震発生から自分の身を守り、家の安全を確認し、安否を示す白タオルを掲げる一連の行動を確認しました。各組長は点検し、消防署への火災通報や消火器操作法の訓練を行うなど、多くの住民が参加して取り組みました。

水城台区自治会は LINE 公式アカウントを開設し、連絡網として多くの住民が登録しています。



「うめさろん」が紹介する“市民のチカラ”!!

防宰ボランティアネットワーク

防災士と防災に関心のある人が集まり、災害に対する研修を重ねてスキルアップしながら、市民に災害の知識・対応策などを広めて防災意識の向上を行う団体です。

《主な活動》

- スキルアップのために国や県などの防災講座を受講
- 災害に対する知識を市民に伝える(「みんなで学ぶ防災講座」など)
- 自治会などへの出前講座(災害・防災関連の座学、図上訓練などの実習)
- 避難訓練・避難所などの開設運営訓練
- 被災地へのボランティア活動



うめさろんから一言

被災地へのボランティア活動では、うめさろんでも参加者の募集を手伝いました。夏は台風や豪雨が多い時期です。皆さんもしっかり災害に備えましょう。

「うめさろん」とは? 問い合わせ ☎(918)3633

いきいき情報センター内にある NPO・ボランティア支援センターです。詳しくは広報だざいふ5月1日号を確認してください。(ページID: 1042)



避難所運営ボランティア講座



熊本地震災害ボランティア

日ごろから隣近所であいさつを交わしたり、気にかかる人を地域で見守ったりすることで、いつもと様子が違うときや困っているときに声をかけあえるような、安心して暮らせる地域のつながりをつくります。

どうやって、つながる?

- ・近所付き合いがあまりない
→会ったときにあいさつをしてみる。
- ・何かに困っている様子の人がいる
→手助けできることがないか声をかけてみる。
- ・一人暮らしで心配な人がある
→日ごろから隣近所で気にかけておき、いつもと様子が違うときは身近な相談先や市役所などに連絡する。
- ・災害時の避難が不安
→地域の防災訓練に参加したり避難経路を確認したりする。



「五条区登下校見守り隊」の活動

困ったときは、身近な相談先へ

市役所や市の相談機関(地域包括支援センター、子育て世代包括支援センター(うめっこテラス)、障がい者基幹相談支援センター)／民生委員・児童委員／社会福祉協議会など

各事業の担当課や拠点となる施設(相談機関)でさまざまな相談を受けています。その人に必要な支援を考え手続きの提案を行います。



興味のある活動や地域のイベント、講座に参加することで、やりがいを感じたり、たくさんの人たちとつながったりすることができます。気負わずゆるやかな気持ちで始めてみましょう。

自分にもできる、やってみる

- ・高齢者サロン
- ・子育てサロン
- ・地域の防災訓練などの行事や自治会活動
→住んでいる地区の自治会
※自治会によっては行われていないものもあります。
- ・ボランティア活動
→NPO・ボランティア支援センター「うめさろん」☎(918)3633
→社会福祉協議会☎(923)3230
- ・出前講座で勉強してみたい
→文化学習課☎(921)2101

具体的な活動については、各機関へ尋ねてください。



社会福祉協議会

地域福祉活動やボランティア活動支援に取り組んでいます。



NPO・ボランティア支援センター「うめさろん」

市民活動や NPO・ボランティア活動などをサポートしています。



自治会

見守りやパトロール活動、清掃、住民同士が交流できる行事などを行っています。(写真は水城区)

つながる

(基本目標1「みんなで寄り添う」、2「支援を届ける」、3「日ごろからつながる」に関連)

行動する

(基本目標3「日ごろからつながる」に関連)